

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471903094	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 レオパレス21		
事業所名	あずみ苑津久井浜		
所在地	(〒239-0843) 神奈川県横須賀市津久井1-16-57		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果 市町村受理日	令和3年1月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様が自宅で出来ていた事を継続出来る様心がけている。 洗濯物を干したりたたんだり、ご自分の役割として積極的に行って頂く様支援している。 ご家族様と外出や外泊も出来るよう支援している。 体力低下防止の為、散歩やラジオ体操を行って頂いている。 在宅クリニック医師の月2回の往診と訪問看護ステーションの看護師の週1回の訪問を受け、しっかり健康管理を行っている。 敬老会には民謡ボランティアさん、クリスマス会には近隣の園児が来苑、夏には町内の御神輿が玄関先まで来て下さって恒例行事となっておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防の為来苑頂けませんでした。敬老会はDVD観賞会を行いお寿司でお祝いさせて頂きました。クリスマス会は職員と入居者様で楽しい会を企画しております。 理念のゆっくりとゆったりと地域の中でその人らしい生活を目指しています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年11月27日	評価機関 評価決定日	令和2年12月25日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 あずみ苑津久井浜は、京浜急行久里浜線の津久井浜駅から徒歩11分ほどの住宅地に位置している。事業所周辺は海拔19mの高台で、裏手の畑に上ると富士山が望め、眼下に東京湾が広がる風光明媚な環境である。事業所は準耐火構造の木造2階建てで、各ユニットには、台所を中央に配した広いリビングや、車いすが相互に通れる廊下など、利用者が「ゆっくり・ゆったり」と生活できる空間がある。</p> <p>【利用者の自己決定の支援】 事業所の理念「その人らしい生活をする」に沿って、利用者が得意だったことや、好きだったことなどを活かした生活を継続または、取り戻すために、管理されない日々の生活の中で、利用者本位で自己決定できるような支援をしている。自立度が高く、一人で入浴することを好む方には、家族の同意を得て、入浴中の安否確認は時々声を掛けるだけにしている。また、日常生活で居室の掃除やリネン交換を手伝う方には、介護計画のサービス内容に掃除を取り入れ、日々の生活の中で達成感を持ち、掃除ができるような支援をしている。</p> <p>今までは行事の時に歌や踊りなどのボランティアの来訪があったが、新型コロナの感染症対策で今年はずべて自粛している。今年のクリスマスには、利用者のできる力を発揮してもらうために、利用者によるハンドベルの演奏や、詩吟が好きな方の発表を予定している。10月からレクリエーションの時間に管理者の指導でハンドベルを練習する方達や、居室で詩吟を練習する方もいる。</p> <p>【馴染みの方との関係継続の支援】 地域からの入居者が多く、日頃から家族をはじめ親戚や友人、知人の来訪が多くある。コロナ禍の中でも事業所は馴染みの方との関係継続を支援し、面会を中止しないで時間の制限や様々な感染症対策を施して、居室での面会を許可している。また、利用者の日常生活の質の維持に取り組み、日々の散歩や家族との墓参り、自宅での宿泊などは今まで通りに実施している。利用者の日常の様子や行事の風景などは、毎月の便りやブログで発信して、家族に伝えている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	あずみ苑 津久井浜
ユニット名	れんげ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい生活をする」「地域の中で生活をする」「ゆっくりとゆったりと」を理念にしている。個性を大切に生活して頂ける様に支援している。	3つの理念と接遇に関するあずみ苑の7つの行動指針に加え、毎月タイムリーな課題の解決に向けた目標を掲げ、朝の申し送り時に唱和している。毎日業務に就く前に唱和して共有することで、管理者は職員が意識を持ち、毎日の業務にあたる事ができていると考えている。職員は理念に沿って、利用者の自己決定を大事にした支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、夏祭りの際には神輿が来てくれていたが、今年はコロナウィルスの影響で中止となりました。花の水やりや清掃時には近隣の方と挨拶をしている。	昨年のクリスマスには地域の幼稚園児が来苑して、一緒にクリスマス会を楽しんだ。また、中学生の福祉体験授業の受け入れや音楽ボランティアの演奏会などもあったが、今はコロナ禍で中断している。現在は、近隣の方と散歩時に挨拶を交わしたり、畑で農作業をしている方から野菜のお裾分けをいただくこともある。隣の家の方が、事業所の駐車場の草取りをしてくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも機会があれば活かしていきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響により運営推進会議は書面での報告をさせて頂き、ご意見や感想を伺い、サービス向上に活かしている。	奇数月の25日に運営推進会議を開催している。メンバーは横須賀市指導監査課職員、地域包括支援センター職員、大町谷町内会長、家族で、年6回開催していたが、新型コロナ感染症対策により、3月以降は文書開催になっている。	メンバーになっている町内会長が他の業務の関係で参加出来ない事があり、運営推進会議に地域からの参加がありません。参加者の幅を広げるために町内会長に限らない人選や、民生委員、介護相談員などに参加を呼びかけたり、開催日時を時々変更するなどの工夫を期待します。

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>横須賀市に定期的に電話等で空き状況を報告し、分からない事がある時は相談している。又、集団指導には必ず出席している。</p>	<p>横須賀市福祉部介護保険課には、要介護認定の更新申請代行や、運営推進会議の議事録の提出に伺っており、担当者とは顔見知りになっている。コロナ禍以前は、地域包括支援センターの研修や行事に参加していた。近隣のグループホームとは個別に情報交換をしたり、事業所で行う研修に参加したりと交流や連携をしている。</p>	
---	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行っている。委員会は月1度行い身体拘束について学習している。言葉の拘束は特に注意している。玄関の施錠は夜間帯のみ。帰宅願望のある利用者様が出て行かれた時にはすぐに状況を把握し、無理に戻っていただくはず落ちつかれるまで付き添うことが出来ている。	毎月行う全体会議の後に、当日出勤の職員で委員会を行っている。当日参加できない職員は議事録で内容を確認している。身体拘束に該当する事例などはないが、調理中などの手が離せない時に利用者から呼ばれたらどうするのか等、具体的な事例をあげ、意見交換をしている。向精神薬を処方されている利用者の減薬に取り組んだり、エレベーター、階段の使用を自由にしてフロアのドアにチャイムを付け、見守りで対応している。日中は玄関、フロアともに開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社研修や内部研修で知識を深めている。日常生活の中で言葉の暴力等も無いよう職員全員で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり苑においても成年後見人制度について学ぶ機会を持ち活用している。必要に応じてご家族へも制度の活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時には十分な説明を行い理解・納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルスの影響で面会にも時間制限があったが、その中で端的に意見を伺うことが出来た。	地域からの入居者も多く、面会に来る家族も多数いるが、3月以降は新型コロナ感染症対策で5月までの間、面会を中止していた。緊急事態宣言解除後は、面会時間を制限して体温測定やアルコール消毒などの対策を施し、居室で面会してもらっている。家族から面会時間延長などの要望もあるが、電話連絡やブログの活用、毎月の便りなど多様なツールを使い、利用者の様子を伝えている。家族から演劇ボランティアの紹介などもあるが、コロナ禍のため実現していない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度全体会議があり、シルバー全体会議やエリア会議での報告を行っている。フロア会議での報告等も行い、意見を聞き反映している。それ以外では個人面談を行い、意見交換をすることもある。	毎月の全体会議では、法人の方針やエリア情報を伝えている。ケアカンファレンスを兼ねたフロア会議では、利用者に関する意見交換や業務改善、ケアプランの見直しなどを話し合っている。開設時からいる職員をはじめ、勤務歴の長いベテラン社員が多く、退職者もほとんどいない。法人のキャリアパス制度や、昇給、資格手当などの処遇面、有給休暇取得など働きやすい環境が整っている。各フロアに管理者やフロアリーダーを配置し、職員に業務分担をして運営に参加しているという意識付けを行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の管理はしっかり出来ている。休憩もしっかり取ることが出来、有給も計画休とリフレッシュ休は必ず取得することになっている。 コンプライアンスマニュアルの読み合せや研修に参加し、労務管理をしっかり行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時事業者独自の介護基礎研修、年1度の自社研修にも参加し、パソコンでの勉強も実施されている。希望者には色々な研修を受けられるよう業務として参加することが出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設職員との交流や情報交換をすることによってサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り、本人の希望や要望に耳を傾けている。不安要素がないか様子観察し、あれば取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階でしっかり説明を行い、家族の要望に耳を傾け、安心して頂けるよう信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要な場合も相談の上支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやって頂き、出来ない時は職員も一緒にやる事で共に過ごし支え合う関係を築いている。安心して過ごしていただけるようコミュニケーションをしっかりとっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い共に本人を支えていく関係を築いている。体調面に変化がある時は連絡し相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族が来苑しやすいよう又関係が続くよう支援している。	事業所の近隣から入居している方も多く、友人の面会は時間を制限して行っている。突然訪ねてくる方には、家族に了解を得てから面会を許可している。また、同じ地域から入居している顔なじみの方同士が昔話をすることもある。今も、家族とお墓参りに出かけたり、家族からの依頼で入居間もない方をタクシーに乗せ、帰宅するための支援をしている。入居前からの生活習慣で、購読している新聞を毎朝取りに行く方や、趣味の詩吟を楽しむ方もいる。また女性の方で眉を描いたり、肌の手入れをする方もいる。得意な編み物や家事を率先して手伝う方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来る様テーブルの配置など工夫している。互いに認知症の理解は難しく職員も一緒に関わる事で利用者同士の関係作りを支援している。楽しい雰囲気作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても時々面会し、見守っている。コロナウィルスの影響で入院中の面会は出来ませんでした。家族との連絡を密にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時や居室内で2人きりの時に話したり、利用者同士の会話から本人の希望を把握し職員で共有し対応している。利用者家族に協力してもらおう事もある。	職員は出来るだけ利用者と1対1になる機会を作り、利用者に寄り添い話を聞いている。居室担当制を取り、利用者と馴染みになり、触れ合う機会を多く持つことで本音を引き出せるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談の際にこれまでの生活歴など把握に努めている、又入居後も本人やご家族の会話や行動などから把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い申し送りで現状の把握に努めている。状態の変化を見逃さない様注意し職員間で共有している。状態により医師に報告し、指示を仰いでいる。申し送りと共に連絡事項を記載して重要事項の漏れがないようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の生活の中でご家族様とは面会時や電話で話し合い、毎月モニタリングを行い、お便りとしてご家族様に送付している。全員が把握し、反映するよう努めている。	介護計画やサービス内容を毎日のケア記録と連動させ、タブレット入力をしている。一人ひとりの排泄や服薬もすべてタブレットで管理している。毎日のケア記録にプランのサービス内容に沿って出来たことは「実施」とし、毎月のフロア会議でモニタリングと6か月ごとの見直しを行っている。居室担当者がモニタリングの内容を毎月の便りで家族に送っている。介護計画の見直し時には、医師や家族に意見を求め、計画作成に反映させている。排泄時の失敗などにシャワー浴で対応することもあることから、排泄チェック表と入浴管理表を関連付けて一目でわかるように手書きで作成している。	

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや様子を記録し情報を共有しながら見直しに活かしている。		
----	--	---	--------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅医療の取り入れを行っている。受診等は家族対応になっているが、状況に応じて職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し安全に暮らしを楽しめるよう支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の在宅クリニックの定期往診を実施している。その他精神科や歯科の往診もある。基本的に職員が間に入っているが必要に応じて担当医と家族で話をし頂き適切な医療を受けられるように支援している。	2つの協力医（内科）から利用者が選んで契約し、往診を受けている。どちらの協力医も24時間オンコールで対応してくれる。従前から通院していた精神科には原則、家族対応で通院しているが、職員が付き添うこともある。車いす利用の方が通院する際は、自宅に車いすに対応できる車がない場合は、事業所の車で職員が対応している。歯科医は家族の依頼で必要に応じて治療に訪れている。訪問看護師による健康チェックを週1回実施している。1月から、かかりつけ薬局による居宅療養管理指導を導入し、服薬管理全般を担ってもらう予定である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護職員はいないが週1回、看護師に訪問して頂き相談しアドバイスを頂き、摘便等の処置を行っている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には介護サマリーにて情報提供を行い、入院中は連絡を取り協力をしている。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には急変時におけるの確認書にて意見を伺っている。苑での看取りを希望された場合は家族、担当医と話し合い支援している。	利用者の入居期間が長くなっていることや、家族の要望も多いことから、開所以来多くの方の看取りを経験している。入居時に「重度化対応や看取りに対する希望」を聞き、その後、状態の変化した時などに再度意思確認をしている。看取り介護を経験している職員が多く在籍していることから、特に不安を口にする職員はいない。看取りに関して協力医から説明と研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず冷静に対応出来るように勉強会等を通して備えている。インシデントを行い、事故を未然に防げるように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施を行っている。コロナウィルスの影響により、現在は簡易的な消防訓練を行っています。	昨年の11月に消防署立ち合いの総合訓練、今年の6月に日中の火災を想定した自主避難訓練を行っている。各居室の入り口には、利用者の歩行状態により、車いすや歩行補助用具など必要な福祉用具が分かるように色分けされた飾りが付けられており、避難時の参考にしている。非常災害時の備蓄はリストに期限などを記載し、職員も含めて備えている。カセットコンロなど備品の備えもしている。玄関にAEDを設置して急変などに備えている。	避難訓練に地域の方の参加がありません。地域も高齢化していることや、日中独居の方が多いことを踏まえ、新型コロナ感染症終息後を機に、地域との相互協力関係の構築を期待します。事業所にAEDが設置されていることの周知など、地域に協力できることを運営推進会議で取り上げ、話し合われることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせて声掛けを行っている。個人情報の管理も研修を受け、鍵をかけて管理し外部へ持ち出さない、出しっ放しにしない等徹底している。書類を破棄する場合もシュレッダーを必ず利用している。	個人情報保護の観点からからパソコンやタブレットは社員Noとパスワードで管理している。USBフラッシュメモリはロックをかけ使用ができない。職員ブログで利用者の行事や日常の様子などを伝えているが、顔を映す方は家族の同意がある方だけにしている。接遇研修は課題が見つかった時などにタイムリーな研修を行い、職員に気付きや、7つの行動指針を再確認するように伝えている。排泄チェック表は、利用者の目に触れない場所に保管したり、排泄誘導時は羞恥心に配慮して小声で伝えている。利用者は基本苗字にさん付けで呼んでいるが、自宅にいた時の「ばあちゃん」や名前に「ちゃん」付けで呼ばれていた方には、家族の了解を得て、本人が好む呼び方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや自己決定できるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごして頂いている。食事も本人の希望に出来る限り沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう衣類を選んだり支援している。毎日の洗顔、整髪等は自己でやっていただき必要に応じて支援している。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の下ごしらえや食器の後片付けを一緒に行っている。配膳や下膳はコップだけやって頂くなど無理の無いように心がけている。会話をしながら一緒に食事することで在宅での雰囲気を大事にしている。</p>	<p>レシピ付きの食材を業者委託し、職員が利用者の食形態に合わせて調理をしている。イベント時は委託業者に行事用の「お楽しみメニュー」を頼むこともある。利用者の誕生日は寿司の出前を取って祝っている。今年の敬老の日もお寿司でお祝いした。月2回、法人の管理栄養士が検食を兼ねて訪問し、利用者も蒸しパンやどら焼きづくりなどの簡単なおやつを一緒に作り、楽しんでいる。利用者は食器拭きなどできることを手伝っている。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態で提供し水分量や食事量を表に記入し把握している。食器や箸は共用だが状態に応じて食器などを利用者の使いやすいものに変える等の支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での歯磨きを促し出来ない部分を支援している。歯周病の方などは歯科医の往診も取り入れケアしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し早めに声掛けを行う等の支援をしている。	布パンツ使用で自立（見守りはしている）で排泄する方が3名、オムツ使用で全介助の方が2名いる。車いすでリハビリパンツを使用し、全介助している方も日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠を優先しているが、定時誘導や歩行が不安定なため、夜間のポータブルトイレの使用など利用者に負担のない支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調節や乳製品を摂取していただく。毎日のラジオ体操や散歩等で身体を動かしていただき便秘予防に努めている。便秘の方はトイレ誘導時腹部マッサージを行ったり、医師に相談し薬を服用していただいている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、それ以外に希望された場合にも利用して頂ける様にしている。入浴拒否の方には声掛けやタイミングを工夫し、特に入浴日を決めていない為、チェック表で把握している。	週2回、午前中に3名前後の方が入浴している。湯は毎回交換して、清潔の保持に努めている。一人での入浴を好む方には、家族同意の下、声掛けで対応をしている。その時々利用者の気分に配慮して無理のない支援をしている。冬至には近隣から頂く柚子で柚子湯を楽しんでいる。お風呂上りは保湿剤を塗布して皮膚の保護に努めている。脱衣場に温風ヒーターを備え、ヒートショック対策をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休んでいただいている。室温や布団調整などを行い安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・服薬などは複数で確認し誤薬の無いように努めている。利用者の傷病や薬の効果・副作用を把握するようにしている。処方に変更があった時等は特に変化がないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人での時間を楽しんでいる時は見守りを行っている。レク等を行い皆で楽しめる機会も作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへ散歩やドライブ等の支援を行っている。車椅子にて散歩に行く事もある。散歩の際に地域の方と遭遇すると挨拶し、言葉を交わすようにしている。外出イベントはコロナウイルスの影響で控えている。	新型コロナ禍以前は、事業所の8人乗りの車で、ドライブや、初詣、花見、おやつを食べに近くのレストランなどに出掛けていた。現在は車いすの方も事業所周辺の散歩に出かけるだけになっている。健脚の方は、富士山や海を望める畑まで30分程度散歩をしたり、歩行が困難な方は、玄関先で花を眺めたり、2階のベランダで外気浴を楽しんだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しく、ご家族様と一緒にの時にお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族に電話をすることがある。家族や友人からの手紙には返信できる様に支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と一緒に花を飾ったり、貼り絵や工作等を飾り季節を感じて頂ける様工夫している。	大きな掃き出し窓のあるリビングは、明るい日差しが差し込み、ゆったりとして暖かな印象がある。壁面には利用者と職員が共同制作をした季節の貼り絵や、皇室の写真などを飾っている。日常清掃は職員が掃除機を掛け、利用者が手すりなどを消毒も兼ねて拭いている。介護計画のサービス内容に、日常清掃を取り入れている方もいる。年2回は専門業者が入り、床のワックス掛けを行っている。感染症対策として、2台の加湿器の設置や、時間を決めた換気、手が触れるところのアルコール消毒など感染症予防に努めている。また、リビングの席を横並びに配置して飛沫対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置を工夫している。居間の座席だけでなく、玄関に長椅子、フロアにソファを置き、好きな所で過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していた物を持って来て頂き、居心地良く過ごせる様工夫している。	居室には、エアコン、ベッド、クローゼット、防災カーテンが備え付けで用意されている。利用者は自宅から使い慣れたチェストやテーブルなどの家具、テレビ、仏壇、時計などの生活用品を持ち込み、好きな絵やカレンダー、ぬいぐるみなどを飾り、思い思いの部屋づくりをしている。自分の好みのカーテンに付け替える方もいる。居室の掃除をしたり、リネン交換をする方もいる。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア移動時はエレベーターが使用できるが、自立歩行が出来る方には一緒に階段を使用している。フロア内は段差がないが入浴時やベランダへ出る時などは見守り・声掛けを行い時には手引き歩行を行い安全で自立した生活が送れるように工夫している。		
----	--	---	---	--	--

事業所名	あずみ苑 津久井浜
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	その人らしい生活をする。地域の中で生活する。ゆっくりとゆったりとを理念にしている。個性を大切に生活して頂ける様に支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、毎年夏祭りの際には神輿が来てくれている。行事の際は民謡、幼稚園児の来訪についても今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっておりますが花の水やりや清掃時には近所の方と挨拶をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも機会があれば活かしていきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており事業報告をしている。利用者家族や行政等の話も聞きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市に定期的に電話等で空き状況を報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自社研修が年2回、委員会は月1度行い身体拘束について学習している。言葉の拘束は特に注意している。玄関の施錠は夜間帯のみ。各階ドアにベルがあり帰宅願望のある利用者が出て行かれた時にはすぐに状況を把握し、無理に戻っていただく落ちつかれるまで付き添うことが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修で知識を深めている。日常生活の中で言葉の暴力等無いよう職員全体で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し苑においても成年後見人制度について学ぶ機会を持ち活用している。必要に応じてご家族へも制度の活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時には十分な説明を行い理解・納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き意見や要望を運営に反映させている。受付には意見箱の設置も行っている。面会時に意見を頂く事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度全体会議がありフロア会議での報告や意見を聞き反映している。それ以外では個人面談や業務時間内で意見交換をすることもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を認めてくれていると思う。 労働時間の管理もしっかり出来ている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時事業者独自の介護基礎研修、年1度の自社研修にも参加している。定期的にパソコンでの勉強も実施されている。又勉強会を通しスキルアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設職員との交流や情報交換をすることによってサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り、「ここにいていいんだ」という安心感を抱いてもらえるよう接している。本人の希望や要望に耳を傾け、不安要素がないか様子観察し、あれば取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け信頼関係を築き、苑での様子などを面会時やお便りでお伝えし、安心していただけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要な場合も相談の上支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやっていただき職員も一緒にやることで介護する人、される人の関係にならない様に対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響で一時面会が困難であったが、近況報告をこまめに行っていた。現在も感染防止に注意し、面会が行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話ができる様テーブルの配置など工夫している。互いに認知症の理解は難しく職員も一緒に関わる事で利用者同士の関係作りを支援している。又孤立しない様に時々座席の配置を変え支え合う様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても時々面会し関係を断ち切らない様心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時等1対1になった時に話しをしている。利用者同士の会話から本人の希望を把握し職員で共有し対応している。ご家族に協力して頂く事もある為、担当職員が毎月ご家族へ日頃の様子を伝えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談の際にこれまでの生活歴など把握に努めている。又入居後も本人やご家族の会話や行動などから把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い申し送りで現状の把握に努めている。状態の変化を見逃さない様注意し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の会話の中で家族とは面会時や電話にて話し合っている。カンファレンスを行い意見を反映し作成し毎月モニタリングを行い家族に書類を送付している。介護計画の内容は職員全員が把握しケアに反映するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや出来る事を記入するようにし、日報には体温・血圧排泄・水分量等を残し情報を共有し見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅医療の取り入れを行っている。受診等は家族対応になっているが、状況に応じて職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し安全に暮らしを楽しめるよう支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の在宅クリニックの定期往診を実施している。その他歯科の往診もある。一人一人の体調変化を見極め主治医への、報告、相談を蜜に行い重症化を防ぐ努力をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護職員はいない為往診時や電話で相談している。新たに医療連携で訪問看護師に相談できるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーにて情報提供を行い、入院中は連絡を取り協力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には急変時におけるの確認書にて意見を伺っている。苑での看取りを希望された場合は家族、担当医と話し合い支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず冷静に対応出来るように勉強会等を通して備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせて声掛けを行っている。個人情報の管理も研修を受け、鍵をかけて管理し外部へ持ち出さない、出しっ放しにしない等徹底している。書類を破棄する場合もシュレッダーを必ず利用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや自己決定できるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごして頂いている食事も本人の希望に出来る限り沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう衣類を選んだり支援している。毎日の洗顔、整髪、髭剃り等は自己でやっていただき必要に応じて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の形態により器を変え、持ちやすく目先の変化を工夫している。会話をしながら一緒に食事することで在宅での雰囲気を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態で提供し水分量や食事量を表に記入し把握している。食器や箸は共用だが状態に応じて食器などを利用者の使いやすいものに変える等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での歯磨きを促し出来ない部分を支援している。歯周病の方などは歯科医の往診も取り入れケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し早めに声掛けを行い失敗しても不安にならない様声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調節や乳製品を摂取していただく。毎日のラジオ体操や散歩等で身体を動かしていただき便秘予防に努めている。便秘の方はトイレ誘導時腹部マッサージを行っている、医師に相談し薬を服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、それ以外に希望された場合にも利用して頂ける様にしている。入浴拒否の方には声掛けやタイミングを工夫し、同性介助希望の方にも対応している。特に入浴日は決めていない為入浴チェック表で入浴していただいているかを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休んでいただいている。室温や布団調整などを行い安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・服薬などは複数で確認し誤薬の無いように努めている。利用者の傷病や薬の効果・副作用を把握するようにしている。処方に変更があった時等は特に変化がないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人での時間を楽しんでいる時は見守りを行っている。レク等を行い皆で楽しめる機会も作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの海や畑へ散歩の支援を行っている。歩行が難しい方は車椅子にて散歩に行く事もある。ご家族との外出が出来る様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者については買い物に行き支払い等をしていただいているが現在は感染症予防の為、買い物は控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族に電話をすることがある。家族や友人からの手紙には返信できる様に支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾り、貼り絵や工作等で季節を感じて頂ける様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置を工夫している。居間の座席だけでなく、玄関に長椅子、テレビの前にはソファを置き好きな場所で過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していた物を持って来て頂き家の様に過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア移動時はエレベーターが使用できるが、自立歩行が出来る方には一緒に階段を使用して頂いている。フロア内は段差がないが入浴時やベランダへ出る時などは見守り・声掛けを行い安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 あずみ苑津久井浜

作成日 令和3年1月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を開催しているが新型コロナウイルス感染症対策により3月以降は文書開催になっている。地域からの参加が無い。	新型コロナウイルス感染症が終息した後は苑にて運営推進会議を開催すると共に参加者の幅を広げ多くの方に参加頂く。	ご家族様にも参加を呼びかけると共に町内会長や民生委員の予定を伺い会議の開催日を決め参加頂けるよう調整する。	1年
2	35	年2回の防災訓練の実施を行っているが新型コロナウイルス感染症の影響により簡易的な消防訓練となっている。地域の方の参加が無い。	新型コロナウイルス感染症が終息した後は地域との協力関係を築き事業所にAEDが設置されている事の周知など、地域に協力できることを伝えていく。	ご家族様にも参加を呼びかけると共に町内会長や近隣の方々にも消防訓練等の参加をお願いします。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。